

開催月日 令和3年11月6日(土)

開催場所 調布市立第四中学校 体育館

令和3年度
調布市立若葉小学校・第四中学校
基本構想中間説明会
第1回

司会 それでは、定刻になりましたので、調布市立若葉小学校・第四中学校基本構想中間説明会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、調布市教育委員会教育部教育総務課の平野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に当たり、調布市教育委員会教育部教育総務課施設担当課長の関口から御挨拶申し上げます。

関口施設担当課長 皆さん、こんにちは。本日は、お忙しい中、説明会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

調布市教育委員会では、今後、第四中学校の敷地を活用し、若葉小学校と第四中学校の校舎の改築を進めて参ります。すでに、市ホームページに関連コンテンツを掲載するとともに、広報誌として「若葉小学校・第四中学校改築だより」を発行し、このことについて、市民の皆様へ周知を進めているところです。

また、この改築事業を進めるに当たり、本年6月に、学識経験者・教職員・地域の代表の方々等で組織しました、「調布市立若葉小学校・第四中学校施設整備検討委員会」を立ち上げ、現在、新校舎の建設に向けた検討を進めておりました、既に3回の検討委員会を開催したところです。

まず、最初に申しあげたいのは、本日の説明会は、新しい校舎の設計が完了し、工事の事業者も決まって、いよいよ工事を始めますといった工事実施の説明会ではないということです。この若葉小学校と第四中学校の改築事業がどのような経緯で決定されたのかということと、検討委員会では、いったいどのような検討が進めてれているのかということを中心に、本日は説明させていただきます、各学校の保護者の皆様や地域の皆様に対して、今後、若葉小学校と第四中学校で、どのような施設整備が進められていくのかということについて説明をさせていただくことを主旨として企画したものでございます。

これまで、特に、若葉小学校の保護者の皆様に対しては、児童数の増加に伴う不足教室対策について、どのような見通しをもって対策にあたるかということについて、教育委員会として具体的に説明ができなかった状況にあり、お子様の教育環境に対する御不安・御心配をお掛けしてしまった点については、この場を借りまして、お詫び申し上げます。

実際の工事に着手するのは、まだ少し先の話になります。このため、この改築事業についての具体的な内容については、今後、順次、決定されていくこととなりますので、本日の時点では、詳細にお答えすることができない状況にありますが、本日、まずは、これまでの検討の経過と今後について、御説明をさせていただいた上で、限られた時間の中ではありますけれども、忌憚のない御意見を頂戴いただきまして、今後の工事着手に向けて活かしていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

司会 続きまして、本日出席しております職員を紹介させていただきます。初めに、調布市教育委員会教育部長の小林です。

小林教育部長 よろしくよろしくお願いいたします。

司会 教育部次長の高松です。

高松教育部次長 よろしくよろしくお願いいたします。

司会 教育部教育総務課施設担当課長の関口です。

関口施設担当課長 よろしくよろしくお願いいたします。

司会 教育部教育総務課施設管理系の森木です。

森木施設管理係長 よろしくよろしくお願いいたします。

司会 それでは、本日の配布資料の御確認をお願いいたします。正面スクリーンを御覧いただきまして、

A4縦 本日の次第

続いて、A3横、資料1-1、調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体的な施設整備について

続いて、A4横、カラー刷り、資料1-2、若葉小学校学区域内の学齢人口（6～11歳の総計）の推移

続いて、A3横、両面刷り、資料2、調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体的な施設整備の基本構想（案）について

最後、A3、横両面刷り、資料3、校舎配置計画比較検討（案）

以上の5点が、本日の資料となりますので、不足等がありましたら、左右又は後方の職員まで、お声掛けください。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、本日の説明会の流れを説明させていただきます。本日の次第を御覧ください。

本日、御説明させていただく内容は、4-1から4-3までの3件についてです。3件一括で御説明させていただいた後に、質疑応答を予定しています。

また、説明会の終了予定時刻ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、時間を概ね1時間程度と考えておりますが、最長でも1時間半として、午後3時30分までとさせていただきたいと思っております。円滑な進行に御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

続きまして、説明に入る前に、皆様に幾つかお願いがございます。

初めに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用へ御協力をいただくとともに、座席の距離の確保、また、換気のため、一部の窓の開放を行っております。御理解・御協力をお願い申し上げます。

次に、本日の記録作成のため、音声の録音と、写真撮影をさせていただきます。お顔が写らないように配慮いたしますので、御了承のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、本日の質疑応答のお時間でお伺いし切れなかった御質問については、次第に記載のURLまたは、QRコードからアンケートフォームにアクセスしていただいて、御意見等を寄せていただければと思います。

それでは、説明に移らせていただきます。4-1から4-3まで一括で御説明させていただきます。

関口施設担当課長 ここからは、着座にて失礼いたします。

それでは、調布市立若葉小学校・第四中学校施設整備検討委員会の中で使用しました資料を用いて、次第にそって、順次説明させていただきます。

最初に、4-1「調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体的な施設整備について」です。スクリーンを使いながら説明をさせていただきます。少しスクリーンが見にくくなっておりますが、御容赦願います。

資料 1－1 を御覧ください。

こちらの資料は、7月27日に実施しました、第1回目の検討委員会での資料です。教育委員会の中で、これまで検討してきた内容について、まとめた資料となります。資料左側のボックス、1の若葉小学校における施設整備の当初計画案についてです。若葉小学校における喫緊の課題の中で、一番大きな課題となっているのは、児童数の増加に伴う教室不足の発生です。このため、若葉小学校敷地内で、小学校単体の施設整備を進めるというのが当初の計画案でありましたので、その検討内容をまとめて記載したものとなります。

しかしながら、こうした検討を進めている中で、様々な課題が発生したため、最終的に判断して結論として出したのが、右側のボックス、2の若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の、一体的整備検討案に記載の内容となり、計画の変更を行いました。現在、この計画に基づき、実際の事業が動き出したところです。それでは、まず初めに、当初計画案というものが、そもそも、こういったもので、どのような検討がなされていたか、ということについて、説明させていただきます。

先程も説明しましたとおり、若葉小学校における喫緊の課題の中で一番大きな課題となっているのは、児童数の増加に伴う教室不足の発生です。そこで、児童数の増加が、どのような状況となっているか、ということについてから説明します。資料 1－2 を御覧ください。

まず初めに、若葉小学校の学区域内における、人口の変化・推移として、若葉小学校学区域内の学齢人口（6から11歳の総計）の推移のグラフについて説明します。学齢人口とは、小学生でいうと、第1学年の1年生の6歳から、第6学年の6年生の11歳までとなり、グラフは、6～11歳までの人口を足した総計を、グラフにプロットした資料となります。手持にありましたデータの関係から、平成25年度以降のデータを用いて資料を作成しています。

まずは、平成25年度のデータから見ていただきまして、4月1日を基準日とし、住民基本台帳に登録された情報から抽出して、グラフを作成しています。平成25年度にプロットした点が、当時の6から11歳までの人口の実数となり、平成26年度以降は、推計値としてプロットしています。例えば、平成26年度の推計値の試算方法は、平成25年度の数に対して、卒業した11歳の6年生の人口をマイナスし、新1年生として入学してくる5

歳の人口をプラスしています。これを各年度ごとに、足した、引いたの差引を行い、推計値としてグラフ化しています。これが、平成26年度の推計。これが、平成27年度の推計。そして、平成28年度までの推移の変化としては、このような形となります。

平成25年度当時としては、平成30年度から増加に転じる見込みであったものが、実際には、平成28年度から増加に転じたことがお分かりかと思えます。そして、平成28年度中に、仮名で集合住宅Gと表記をしましたが、学区域内で300世帯を超える大規模集合住宅が竣工し、入居が開始されたことが、大きく影響したと思われ、平成29年度の推計値では、大きく上振れる傾向となりました。翌年の平成30年度は、多少の増加幅はあるものの、傾向としては前年から大きく変わるものではありませんでした。

しかしながら、この年度の途中に、仮名で集合住宅Uと表記をしましたが、再び集合住宅が竣工し入居が開始されたことにより、令和元年度の推計値では、更に大きく上振れる傾向となりました。これが、令和2年度の推計。今年度の推計としては、このような状況となっています。

そこで、こうした推計に対して、どのような対応を検討していたのかということに話が移るわけですが、調布市全体の事業計画を位置付けている、最上位計画に「調布市基本計画」というのがあり、この計画の事業期間が、令和元年度から、令和4年度までの4年間を、事業計画期間としています。現在、この調布市基本計画に基づいて、様々な事業が展開されており、本年度は、事業計画期間の3年次目となっていますが、当然、若葉小学校の不足教室対策についても、計画事業に位置付けて、事業を進める予定でございました。

そこで、このグラフを使いまして、時間を過去にさかのぼりまして、時を少し戻します。時間は、平成28年度までさかのぼります。この時点において、今後完成する集合住宅の入居に伴い、学齢人口の増加が発生する波が、2回発生することについては、想定出来ていた状況です。イメージとしては、台風の進路予想図と同じで、グラフに落とし込むと、このようなイメージとなります。1回目の波としてこのような増加予測となり、そこに、2回目の波が発生し、増加予測の方向が、大きく変化するイメージとなります。このため、このような、増加推計をたどるのではないかと予測を立てていました。

こうした状況の中で、若葉小学校の不足教室対策を、完了させる目標として設定したのが、現行の基本計画の最終年度となる令和4年度を設定しました。そこで、どのような計画を立てて、どのようなスケジュールで実行して

いくのかという話になります。

こちらの表を御覧いただきまして、不足教室対策の完了を、令和4年度末に設定するため、校舎増築工事を令和3・4年度の2箇年をかけて実施することとし、工事に必要な設計を、令和2年度に実施することとしました。令和2年度に実施予定の実施設計に向けて、どのようなコンセプトの校舎を増築するのかという方針を決定するための、基本構想というのを、令和元年度に実施するため、平成28年度以降、学齢人口の増加状況を踏まえながら、多角的に検討を進めることとしました。

その一方で、令和5年度に向けては、児童数の増加に伴い、不足教室が発生するため、当面の間の対応として、校庭の使用に支障が生じない範囲で、平成29年度に仮設校舎の建築を、行うことと併行して、既存校舎内で、普通教室を確保するための改修工事を実施しました。

また、既存の給食室では、今後増加を見込む児童数に対して、調理能力の限界に達していたことから、給食室の拡張を含む給食室の改修工事を、平成30年度に実施しました。そして、令和4年度末までの必要な教室を確保するため、2度目の仮設校舎の建築を、令和2年度に実施したわけですが、この時点では、既に校舎を増築するスペースが、確保出来ないことから、いよいよ、校庭を縮小してでも、仮設校舎を建築しなければならなくなったという経緯になっています。

そこで、令和元年度の基本構想というのが、この後、建築する校舎の規模をどのくらいの大きさのものにするのかを決定するため、計画を進める上で、重要な意思決定が必要なポイントとなるタイミングとなります。そして、その時の判断材料として、今、説明してきた学齢人口の推移というのが、非常に重要となるわけですが、実際には、想定していた推計を、大きく上振れる状況となってしまい、このことが、今後の計画に大きく影響する事態となりました。想定していた推計のカーブに対して、令和元年度に出てきた推計のカーブが、このような状況になってしまったということです。

では、具体的に検討を進めている過程の中で、どのような影響が生じたのかということですが、現状の若葉小学校の敷地の中に、新たに校舎を増築するスペースはすでにありません。このため、一旦、既存の建物を解体、除却することによって捻出された場所を使って、再建築するしか方法がありません。

そこで、検討段階の初期段階において、既存のプールを解体して、そこに、

校舎の増築と合せて、プールを再整備することから検討をスタートしました。

しかしながら、それでは、今後必要な教室等の床面積を、確保することが出来ないため、さらに、増築スペースを確保するためには、体育館を解体、除却するしか方法がなく、最終的に、既存の体育館・プールを解体し、そのスペースに校舎の増築と、体育館及びプールを再整備することとしました。これが、先程説明しました、現在の基本計画に位置付けた事業計画となります。

今後の児童数の増加に伴う、普通教室の確保に当たっては、このように、体育館及びプールの再整備も伴う、大規模な施設整備となることから、将来的な教室を確保出来る見通しを持っていたところですが、現実的には、学齢人口の増加予測が、大幅に上振れる結果となり、ここから導き出された、校舎の増築規模では、現在、若葉小学校の敷地が指定されている、用途地域の容積率をオーバーしてしまう結果となりました。実際には、体育館の床面積を、確保することが出来ない状況となることから、資料に記載のとおり、第四中学校の体育館を利用しなければなりません。また、一つの体育館を、小学校と中学校でシェアすることは、現実的に不可能なので、第四中学校側には、早急に新しい体育館を建築しなければなりません。

また、それぞれの学校においては、資料の中段（２）にも記載のとおり、施設面での課題があり、若葉小学校の敷地に隣接する、図書館若葉分館においても、施設面での課題があることから、総合的に判断し、資料右側のボックスに記載のとおり、第四中学校の敷地を活用し、若葉小学校と第四中学校の改築を同時に実施するとともに、小学校に隣接する図書館若葉分館の改築移転も含めた、一体的な施設整備という計画案にまとまりました。

計画変更に伴う、今後の事業スケジュールの予定についてですが、資料の右上に記載のとおり、令和３年度は基本構想の策定を進めます。基本構想の策定に当たっては、令和３年度の図を御覧いただきまして、検討委員会を設置し、検討を進めているところで、すでに、３回の検討委員会を開催したところです。

そして、令和６年度末までに設計を完了し、令和７、８年度の２箇年で、校舎の建築工事を進め、令和９年度の４月から、新校舎の供用を開始したいと考えています。

こうした、当初計画案からの変更について、令和元年度から、令和２年度にかけて最終的な調整を進めていたため、若葉小学校における施設整備につ

いて公表が、今年度になってしまったというのがこれまでの経緯となります。以上が、4-1の説明となります。

続きまして、4-2「調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の、一体的な施設整備の基本構想（案）について」説明します。資料2を御覧ください。

調布市教育委員会では、若葉小学校・第四中学校、及び図書館若葉分館の施設整備を進めるに当たり、今後の施設整備の在り方・方向性を示した、調布市立若葉小学校・第四中学校、及び図書館若葉分館施設整備に関わる基本方針を、本年6月に策定をしました。この中で、施設整備に関わる基本方針としては、方針1から方針3の三つを定め、方針1については、3項目、方針2と方針3については4項目をそれぞれ決めました。

本日、配布しました資料で、この位置に記載している内容が、施設整備に関わる、基本方針として定めた内容です。資料の表面、1ページ目には、施設整備に関わる基本方針の1について記載をしています。そして、この基本方針の1に対して、3項目の条件を設定しました。ここまでの、6月に策定をしました調布市立若葉小学校・第四中学校、及び図書館若葉分館施設整備に関わる基本方針の内容となります。

そして、この内容をもう少し、発展させた内容を、丸数字で箇条書きにしていますが、この項目を、現在、検討委員会の中で、議論をしている最中であり、検討委員会の中で、最終的に決定した内容が、今回の事業計画に関わる、基本構想という位置付けになりまして、新しい学校づくりを進めて行く上での、ビジョンに相当するものとなります。

続いて、裏面には、施設整備に関わる基本方針の2と3について記載をしておきまして、検討委員会で議論している内容として、先程の説明と同様になります。丸数字で記載をしております内容については、現在も議論をしている最中であり、10月時点での案となりまして、今後、修正が加わる内容であります。

本日は、あくまでも、現時点でこのような検討をしていますということをお伝えするために用意した資料であることを、御承知おきください。

以上が、4-2の説明となります。ここで、説明員を交代させていただきます。

森木施設管理係長 続きまして、4-3「校舎配置計画比較検討（案）」に

ついて説明します。資料3，両面刷りとなっておりますが，まず，表面，右下に12とあります「校舎配置計画比較検討(案)」を御覧ください。なお，右上の注意書きにありますとおり，第3回検討委員会時点での案であり，確定した内容ではありませんので，御了承ください。

現在計画している施設整備については，第四中学校の敷地を活用した施設整備を進める計画としており，新校舎の建設場所は，第四中学校の校庭内となります。第四中学校の校庭内のどの位置，どの範囲を活用するかということで，A，B，Cの3種類の案を提示しております。各案につきましては，もう少しポイントを絞って説明します。

まず，左端のA案は，敷地の南側に新校舎を配置するプランです。こちらのプランは，校庭の南側に新校舎を寄せるため，既存校舎を解体後，北側にまとまった形の校庭を確保することが可能です。

次に，中央のB案は，敷地の西側に配置するプランです。こちらのプランは，西側に新校舎を寄せていますが，東側にある既存体育館とあおば学童により校庭が他の案に比べ，不整形となりますが，校庭への日照が多く取れます。

最後に右端のC案ですが，A案と同様に敷地の南側に配置しておりますが，一度裏面の右端の図を御覧ください。C案は断面的に見た場合，中学校棟と小学校棟が中央の「共用」とある部分で接続している形状となっており，例えば，新宿にある東京都庁のようなツインタワーのような建物形状を想像していただければと思います。再度表面にお戻りください。

今回の計画では，図書館若葉分館を併設する計画のため，図書館を利用する方々の動線，保護者の方々を始めとする学校に関わる関係者，主に大人の動線，そして，児童・生徒の動線を，防犯面の視点から，それぞれ分離させ，その上で，校庭・グラウンドの形状や位置関係，近隣周辺への影響がどうなるのかという点に主眼を置き，比較検討を進めています。

続きまして，裏面の校舎ゾーニング計画比較検討(案)を御覧ください。こちらは，校舎の配置プランの検討と併行して，校舎内のゾーニングの検討を進めるために作成した資料です。ゾーニングとは，ある空間をテーマや用途などにより大枠で分け，部屋の配置を考える上で基本となるものです。

今回整備する施設は，小学校と中学校が一体的な施設，校舎となりますので，小学校エリアと中学校エリア，それぞれのエリアをどのようにレイアウト

トしていくのが良いのかということについて、今後も検討委員会にて議論を進めていく予定です。

以上が、現時点での、校舎の配置計画と校舎ゾーニング計画それぞれの比較検討の説明となります。今年度の基本構想の策定に伴い、校舎の配置計画と校舎ゾーニング計画をまとめていく予定です。その後、基本設計、実施設計と続いていきますが、詳細プランの決定は実施設計段階となります。そのため、冒頭にも説明したとおり、現時点での計画案であり、確定した内容ではありませんので、御理解いただければと思います。

司会 それでは、質疑応答に移らせていただきます。質疑応答に当たり、皆様に幾つかお願いがございます。

まず、御質問のある方は、手を挙げていただき、司会の私が指名させていただきます。係の者がマイクをお持ちいたしますので、マイクがお手元に渡りましたら御発言をお願いいたします。

御発言に際しては、「若葉町1丁目の平野です。若葉小学校の保護者です。」と言うように、初めにお住いの地域をおっしゃっていただき、支障のない限りで結構ですのでお名前をお願いします。また、学校の保護者の方には、学校名をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

なお、質問者が多数の場合には、午後3時を目途に一旦打ち切りまして、残りの質問者の人数を確認した上で、時間延長を決めさせていただきますと思います。それでは、御質問のある方は、挙手をお願いいたします。

それでは、前から2列目の方。

〇〇 若葉町1丁目〇〇と申します。この計画は小中学校と若葉図書館が一体化するというのが、肝ではないかと伺いましたが、図書館の機能というのはこれまでと変わるのか。つまり、学校敷地内に図書館若葉分館が入ることによって、今までの図書館活動にどのような変化が生じるのか、そのあたりのお考えを教えてくださいたいです。

関口施設担当課長 只今の御質問ですが、今回、学校施設の中に図書館若葉分館が入りますが、機能としては現状と変わらず、地域図書館の場所が

移転して、建物が一体となる。調和小学校の校舎と同じような感じでイメージしていただければ良いかと思えます。基本的には機能やサービス面としては一切変わらなくて、単純に場所が移動するという風に御理解いただければと思います。以上です。

司会 よろしいでしょうか。それでは他に、質問のある方はいらっしゃいますか。

〇〇 人間町2丁目に住んでいて、子供が若葉小にいます。1年生と5年生です。まずは、このように地域の方に説明していただくという機会を作っていたいただいて、本当にありがとうございました。また、小学校に通わせている保護者としては、お知らせもあまりないまま、どんどんプレハブが建って行って、子供から狭くなったという声が続々上がっていて不安だったので、このように説明していただくというのは大事な機会かなと思いき感謝しております。私からは、要望が三つと質問が一つあります。

一つ目の要望としては、少し前にアンケートを取っていただいたと思うんです。小学校と、中学校の子ども達と保護者、あと学校関係者の方に。その結果から、子どもからの声が上がっていると思うんですが、それをやはりよく、丁寧に取り込んでいただきたいと思います。小学生からは、広い芝生のある校庭とあるんですが、それが一番で、改築をしてスペースが広くなれば、多少、実現する部分があるかと思うんですが、体を思いっきり動かせる場所というものがあつたので、それが出来るような校舎の配置を考えていただきたいなと思っております。中学校の既存の体育館がしばらくは残るということもあって、そちらをもしかしたら小学生が使うということになると考えると、本当に、地域で、公園で遊べる場所が、調布には少ないので、学校の校庭は子どもの馴染みの場所なので、子どもの声を、ぜひ聞いていただきたいと思っています。中学生の意見としては、放課後の居場所が欲しい、自習室が欲しいということが大きかったと思うんですが、調布市は児童館も狭かったり、居場所がなかったり、図書館も狭かったりで、塾と家庭と部活で忙しい中学生にとって、学校とかでの居場所も必要とされています。その場所を教室以外のどこに設けるのかというのは、これだけ子どもが増えるので難しいとは思いますが、何かしら、もしかしたらベンチがあるとか、そんなのでも良いでしょうし、フ

リースペースが設けられれば、それは良いかなと思うんですが、何かしら出来ないかなということを検討していただきたいなと思っています。

今、参考にされているのが、芦花小、芦花中学校と聞いていますが、私の知り合いも、そこに子どもが通っていて、やっぱり、放課後、居場所になる場所というのは、芦花小、芦花中にもないそうです。なので、そこだけ参考にしていると、そういうスペースは設けにくいのかなと思うので、例えば、私の知っている所ですと、西東京市に中学校に放課後カフェをやっている取組があって、その中では、ちょっとやり方は変わっているんですけど、中学生と地域の方が交流したりとか、居場所があったりとか、そういうことに取り組んでいたり、世田谷の希望が丘青少年交流センターは、完全なフリースペースなんですけど、子どもがどういう場所を欲しているのか、公立の学校でどこまで実現出来るのかというのは、ちょっと近隣の芦花小、芦花中だけでなく、もう少し広い視野で検討していただきたいなという要望です。これが一つ目の要望です。

二つ目は、現場の先生方の声をよく聞いていただきたいなと思っています、実は私、前回の検討委員会、傍聴させていただきました。あれだけの関係者の方が子ども達のために話し合ってくださっていて、すごくありがたいなと思いました。その中で、子どもの声を一番拾ってくださっているのは、もしかしたら保護者よりも先生方かと思うので、その声を、まだ柔らかい段階なんですけど、もう少し、詳細を詰めていく段階で、現場の先生方からの声を吸い上げていただきたいなという要望です。

三つ目。すみません、長くなって。今、頂いた資料にも入ってますが、調布市に、調布市子ども条例という素晴らしい条例がありますが、その14条、ちょっとすみません、少し、読ませていただきます。調布市の子ども条例の中に、14条、学校等の役割というものがありまして、学校等は、集団生活をとおして、社会性、基礎学力、考える力、創造力等を子どもの心身の発達に応じて身に付けることが出来るようにするとともに、子どもが自ら学び、遊び、夢を持って将来への可能性を開いていくために、家庭、地域及び市と協働して教育を推進するものとする。というのがあります。長くなりましたが、何が言いたいかということ、今ちょっと、安全面とか防犯面で、地域の方と一緒にというのは、難しいかと思うんですが、地域交流は、やっぱり、小学生も中学生も大事だと思っているので、これをどこまで入れるかということも、池田小事件もあって、難しいか

と思うんですけど、出来ないから安全にだけでなく、安全性も考えながら、どこまで出来るかと、子ども条例も改めてしっかり視野に入れながら考えていただきたいと思っています。

最後、質問です。給食室は改修されたんですが、新しい校舎になった時に、給食室って新しくなったばかりなんですけど、どうなりますか。何人かの保護者に聞かれたので、代表で、質問させていただきます。以上です。

関口施設担当課長 御意見ありがとうございます。まず、先日アンケート調査を実施しまして、この中にアンケート調査に御協力いただいた方もいらっしゃるかと思います。まず、調査に御協力いただきまして、ありがとうございます。

第3回検討委員会の中で、集計結果の途中をお知らせさせていただきましたが、現在、最終的なまとめを行っております。最終のまとめを第4回検討委員会に向けて、鋭意作業中であります。検討委員会は11月22日に実施いたしますので、2週間後くらいに議事録等をホームページに公開していきます。その中で、アンケート調査結果も公開するよう準備をしておりますので、そのあたりを参考にいただければありがたいなと思っております。

3番目の御要望で、地域一体となった学校づくりということで、検討委員会の中でも、ただ学校の中での教育ではなく、地域と一緒に子ども達を育てていこうという御意見も出ておりますので、まだ今の時点でどういう風になるか、結論には至らないのですが、そういった視点も入れて新しい学校づくりを進めていきたいと考えております。

また、質問いただきました給食室、若葉小学校の給食室がどうなるのかについてですが、新しい校舎を造る段階で、新校舎に再度、給食室を造る予定ですので、今の既存の若葉小学校の給食室については改修を入れて、手を入れた状態ではありますが、児童数の増加に伴って、これまでの給食室では、まず調理スペースが小さすぎて、今後増えてくる児童について、給食の提供が出来ないという状況でありましたので、やむを得ないということで、改修工事を実施し、改修工事と一緒に給食室を拡張する工事を実施して、まずは、これから入ってくる子ども達を含めて、確実に給食を提供出来る体制を整えました。そして、これから新しく校舎を整備しますけ

ども、そちらの施設の中に新しい施設を整備すると考えております。以上です。

司会 それでは、次の方に移らせていただきます。私から見まして、右側後方の緑のお洋服の方、お願いいたします。

〇〇 今日はありがとうございます。滝坂小の保護者です。とてもすごい、新しい施設について考えてくださっていることが伝わってきたんですが、工事中に小学校と中学校の在籍されている子ども達が、工事中の体育の授業数が、他の小学校や中学校より減ってしまうとかを考慮されているのかをお聞きしたいのと、9年構想みたいなのが、若葉小と四中で軸になっているという図がありましたが、滝坂小や調和小から中学に入ってくる子ども達が、今、とても少ないとは思いますが、その子ども達があまり入りにくい体制、9年とがっちりしてしまうことがなんとなく考えられると、今ある学校のこの住所ならこの学校と決まっているものがあると思いますが、それが変更になるようなお考えがあるのかお聞きしたいのですが、よろしく申し上げます。以上です。

関口施設担当課長 まず、工事中の体育、校庭であったりとかは、資料1-1の裏面を見ていただきたいのですが、令和7、8年に実際の四中で工事をしますので、この時期になると四中の校庭は使用出来ない状況になってしまいます。今、配置計画を行っていますが、実際にこれから造る校舎により、どれだけ面積が残るかということがまだ分からないので、少なくとも令和7、8年については中学校も含めて、体育の授業には支障が出てくることは事実です。しかし、実際に学校の教科の過程をどうするかということ、工夫をして、適切なカリキュラムを行えるように準備をしています。実際には指導室であります。そちらで検討していくという内容になります。

また、9年教育ということで、今、小中一貫教育、または小中一貫校という自治体もありますが、そういった言葉を耳にされることがあるかもしれませんが、小学校6年、中学校3年ではなくて、小学校1年から中学校3年までの9年間を見越して、継続的に子ども達の教育をしていこうというものですが、現在、調布市の中では、小中一貫校を進めるのではなく、

あくまでも、小中連携教育をより発展させていこうという考えです。そこで、まずは、若葉小と第四中が、近いといっても物理的に離れているものが、一つ屋根の下に小学校と中学校の先生が居ますので、まずは小中連携教育として発展し、連携の部分で調和小、滝坂小も含めて小中連携教育が出来るような形が出来ると良いなと考えているところです。確かに、今回、若葉小と四中が一体となると、滝坂小や調和小から来る子は中学3年となっていますので、そこは取り残されないように、そうならないように教員は準備をしていきますので、御心配をいただかないように準備をしていきたいと思えます。以上です。

司会 それでは、私から見て左側、帽子を被られた方、よろしくお願いたします。

〇〇 元教員をしていました、若葉町3丁目の〇〇です。若葉町、入間町の周辺についてのコミュニティを確保して、豊かな市民運動、要するに親しみを持てる学校施設を整備しますと書いてあるんですね。図書館ですけども、もっと、三鷹の図書館とかは5時に終わり、7時くらいまでボランティア、市民のボランティアが貸し出しじゃなくて、本を読む場所を提供しているんですね。今は本当にひとりぼっちの、孤立した子ども達が多いんですね。ですから、市民が集える場所を図書館の中に、ボランティア、上からだけでなく、市民からも場を作っていくことが大事なんじゃないかと思えます。この四中に来て、私の教え子、四中の生徒会会長をして、中央大学、法科を一浪して受かったんですけど、彼は自ら命を絶っちゃったんですね。彼がどこで勉強していたかと思ったら、世田谷の図書館で勉強をしていたんですね。なぜ調布とか学校の図書館で勉強しないで、世田谷のおばあちゃん、おじいちゃんのいる温かい場で勉強をしていたというんですね。図書館というのは、今、京王線の事故とか、凶悪な犯罪もありますけど、結局みんな孤立している人が多いんです。みんな、優しく認めたり、そういう人間関係を育てる場としても、図書館、そういうものを、調和小の図書館にも、私行きましたけども、市民のボランティア、退職したり、色んな人たちがいるわけですね、その人たちの読書会をしたり、繋がりのある場所を図書館に造って欲しいと思えます。だから建物の

ことを介して、色々な場面、豊かな市民運動に取り組み、親しみの持てる学校施設をぜひ造っていただきたいと思います。以上です。

小林教育部長 貴重な御意見いただきまして、ありがとうございます。今年度は基本構想という形で、様々な立場の方々から、様々な御意見を頂くという年のため、こういった説明会の場で、御意見を頂戴しているということでございます。その中で、学校そのものもそうですが、あわせて、図書館若葉分館のことについても教育委員会の中で、検討を進めている状況でございます。

時代によって、様々な図書館の役割というものが、変わっていく部分と変わらずに残っている部分と当然ありますので、新しい時代に向けて、こういった役割を果たしていくのが良いのかということにつきましても、施設が新しくなるだけでなく、中身についても、今後、検討させていただきたいと思います。施設の安全面というところは確保しなければなりませんけども、一方で、広く地域に開かれた施設という視点も必要だと思います。図書館だけでなく、学校ももちろんそうですが、こういった形で整備していけるかということについては、今後も皆さんの御意見を参考にさせていただきながら、検討を進めていきたいしたいと思います。貴重な御意見、どうもありがとうございました。

司会 それでは次の方に移らせていただきます。どなたかいらっしゃいますか。私から見て右側の白いお洋服の方、お願いいたします。

〇〇 入間町在住です。お世話になっております。今回のこちらを拝見したんですが、令和元年、今、若葉小、1年生の子供が卒業を迎えるのが令和8年だと思いますが、現状不足している教室、校庭がないという話に対して、現在在籍している子ども達への対応の話があまりないので、そのあたりの詳細を聞かせていただきたいです。また、人口増のシミュレーションを拝見しても、1000人越えの小学校になるという予測が7年あたりに出ておりますけども、今後、現在、教室が足りないということであれば、仮設の教室も増える、そしてまたグラウンドがなくなる、こういった対応で。また、先程のお話でもありました、7年、8年は中学校の工事により、グラウンドを使用することが出来ないというお話がありました。

現在の若葉小の子ども達が昼休みは週に2回しか遊べない。中学校のグラウンドをお借りして、ようやく週2回をキープしている形なんですけども、これも7年、8年になれば、皆無という考えになるかと思いますが、今、通っている若葉小の900人以上の子ども達、プラス今後増える1000人くらいの子どもが、令和8年まで、この対応によって通常の小学校生活を行えないんじゃないかというお話をたくさんお聞きしているんですけども、そのイレギュラー対応、現状の対応というのを詳細に聞かせていただきたいです。令和9年、6年後に小学校、中学校が一体となつてというお話はもちろん進めていただきたいんですが、今の子ども達への対応、グラウンドがないです、教室を造っていますというところの話をお願いします。

小林教育部長 ありがとうございます。我々としましても、今回の説明会を開くに当たって、やはり一番懸念しておりましたのは、現在、若葉小学校に通っているお子さん方が、グラウンドが狭い、思うようにグラウンドが使えない、こういう声を多く頂いておりますので、ずっと辛い状況のまま卒業、それから中学と、状況が続くということです。今現在は、第四中学校のグラウンドを一部使わせていただいて、運動会も、私、拝見させていただきましたけども、大変御不便の中で、現在の教育活動が行われているという状況は十分承知しています。先程から御説明している内容でお分かりかと思いますが、こういった状況が続いていく、今後グラウンドがどんどんと広がる状況は中々見込めないという状況もございます。そうした中で、小中連携という話をキーワードとして出させていただきましたけども、四中側の理解もいただきながら、四中のグラウンドをどうやって使っていくか、使わせてもらうかという内容に関しましては、それぞれの学校、若葉小も四中も校長先生を通じて御不便のないようにという形で御配慮いただいているのが現状であります。本来であれば、思うように身体を動かして、サッカーを広いグラウンドでやったり、野球をやったりという形が取れば、一番良いわけですが、そういった現状でないということについては、お詫びをして御理解を求めていくしかないと教育委員会としては考えております。何とか、少しでも良い環境を提供出来るように、四中側にも協力を求めながら、四中側で工事が始まったらどうするのかという心配もあろうかと思いますが、なるべく御不便をかけないように上手く調

整を進めていければと思います。そうは言いましても、実際に御不便を感じられることが多々あるかと思いますが、今後の計画の中で様々な御意見をいただきながら、調整を図っていきたいと考えております。引き続きの御理解、よろしくお願い申し上げます。以上です。

関口施設担当課長 具体的なところで、1点補足をさせていただきます。令和2年度に造った仮設校舎を建設するに当たって、校庭の面積が少なくなりますので、その時学校と調整していたのが、例えば、ジャングルジムであったり、上り棒、雲梯を設置するかどうかを協議していたところです。しかし、学校の意見としては、運動場の広さを優先したいということで、その時には、ジャングルジムとかは設置を見送りました。しかし、今年度になり、学校から、やはりそういった体育器具が欲しいという声を頂いておりまして、現在、プールの横に、池がありますが、それを壊して、まずは雲梯を造るための工事をこれから発注する予定で準備をしています。学校も実際の状況を見ながら、色々先生方も考えてますので、まずは、体育に必要な物や、今後の授業の在り方を踏まえて、学校の先生方が工夫されている状況です。その中で、必要な声をもらった上で、今後、出来ることをしたいと考えております。以上です。

司会 それでは次の方に移らせていただきます。まず、黄緑色のセーターを着た方、お願いいたします。

〇〇 人間町に住んでいます。子ども達がここのOBで、私は図書館の利用ユーザーです。何点かお聞きしたいんですけども、子ども達も、上は大学生で、下は高校を卒業したんですが、その頃から大規模なマンションが出来ることは分かっている、きっと生徒数が増えるだろう、児童数が増えるだろうということは分かっている、今になってという感じですので、今後もし、ここはもう仕方ないですが、他の地域で、分かるじゃないですか、そういうのは。そしたら、ちょっと前から検討が始められるんじゃないかと不思議に思ったところです。お聞きしたいのは、図書館ですが、この改築に当たって、図書館の人たちもちゃんと中に入って協議をしているんでしょうか。調和図書館についても、入れ物が出来て、図書館も使ってくださいって言われたと聞いていますので、そういうことがないように、

図書館としても使い勝手の良いような、司書さん達の意見も、利用者の意見も取り入れた施設になってくれたら、せっかく新しく造るので、そうなってくれたらうれしいなと思います。世田谷の某図書館とかになると、カウンターがある所と児童室がある所が、全く別になっていて、児童室で子ども達が危ない目に合うことが多いという話も聞きますので、そういう話は一杯。せっかく造るので、色々意見を募って造っていただきたいなと思います。あと、先程の芦花小、芦花中についてかと思いますが、授業の合間のチャイムが鳴らないとか、中学校や小学校で40分授業と50分授業でずれてしまうので、中学校の授業中に小学生が遊んでいる声がうるさいとかそういう話を聞いたりするんですけど、そういうあたりはどのようにお考えをしたのかなど。すみません、長くなって。あと、若葉小の図書館、図書館の土地は飛び地になると思うんですね、あそこをどうやって使うのか、あとは、若葉小の方がサブグラウンド書いてありますが、そこらはどうするのか。私の周りの地域の方達からも、危なくないかなという話が出ていますが、歩道橋みたいな橋をかける予定があるのかどうかなどをお聞きしたいと思っております。

関口施設担当課長 まず、1点目の質問で、学校の不足教室対策というところでは、全国的にはこれから少子高齢化で、子どもの人口は減っていくのが日本の流れですが、調布市に限って言えば、まだまだ小学生の学齢人口は増えている状態です。これまでは調布市の北部地域と西部地域の方が比較的児童数が増えている状況だったのが、今は、丁度京王線沿い、調布駅から東のこちらの地区にかけての学区域が増えていく状況です。そのため、今から状況を見ながら、不足教室が発生しないように対策を練っておりますが、なかなかこの推計を出すというのは難しいもので、極端なことを言いますと、これから学級数を35人に編成していきますが、例えば35人であれば1学級ですが、そこに1人増えれば2学級になって、1年生から6年生までが35人で、そこに各学年1人増えれば6教室足りない、単純に倍になるという状況です。35かける整数倍、35人なのか36人なのか、70人なのか71人なのか、105人なのか106人なのかで変わるものなので、その状況によって、学校の教室が足りるか足りないかというのは大きく変わる状況で、どう見極めをするかということが非常に難

しいものであります。安全に見積もって若葉小のようにならないように、今、鋭意検討を進めています。

図書館の整備についてですが、検討委員会の中には図書館長がメンバーとなって、基本構想の策定を進めております。具体的な使い勝手ですとか、図書館のレイアウトは、これから図書館にどれくらいの床面積を確保するかで決めていきます。その中で、使い勝手が良いものとなることと合わせて必要な機能が入るようにしていきますので、今の段階ではまだ、具体的に現場で働く司書の声は入っておりません。これから設計をする上で、設計図を作る段階では、現場の意見を取り入れて設計していく形になります。

実際に新しい校舎が出来た後、今の若葉小学校の校舎については全て解体し、サブグラウンドとして使う予定です。当然、若葉分館も解体しますが、間に道路が入っており、離れていますので、道路を付け替えて、一体的な形に敷地を成形するという検討も出来ますので、今の時点でどうするという事ではありませんが、今後、跡地を活用するという点においては、道路を見直すことも必要な検討と考えております。また、サブグラウンドとして使うことになると、子ども達が横断しなければならないので、渡る動線を作らなければなりません。そうすると横断歩道のように上に行くのか、下に穴を掘ってトンネルのようにするのかという二つしかないと思いますが、下を掘るとなると非常に難しいため、もし動線を確保するという事になれば、横断歩道のようなブリッジをかけることが一つの方法だと思います。しかし、今の時点で、やるのかやらないのかということについては、結論が出ておりません。全体の事業費にも関わりますので、必要性和実際の事業費の兼ね合いから決めたいと考えております。

また、授業時間については、一つ屋根の下に小学校と中学校があり、生活をします。やはりチャイムの違いというのは出てくるかと思えます。お隣の世田谷の芦花小、芦花中も工夫をしながらやっている。他の先進的に行っているところの状況を参考にしながら工夫していきたいと思えます。以上です。

司会 それでは次の方に移らせていただきます前に、お時間の都合もごさいますので、一度、御質問のある方、全ての皆様、挙手していただけます

でしょうか。今挙げていただいている方でよろしいですか。4名の方がいらっしゃいます。こちらの方で以上とさせていただきます。

それでは、最初に黒いお洋服を着た中央の方、御質問をよろしく願いいたします。

〇〇 若葉町3丁目の近隣住民です。近隣住民の立場から意見というか、思いを言わせていただこうと思います。今回の改築の話、進め方に不満というか、どうなのかなと思うところがあります。周辺住民に対し意見を聞くことなく、ありきという形で進められたという感じがしていて、突然、今年の夏位から、案内がポストに入る感じで、周辺住民の意見が問われていないような進め方かなと思っていて、ちょっと不満に感じています。検討を進められるに当たって思ったことが、もっと周辺住民への影響というのを十分考慮して進めていただきたいなと思っています。特に、今日の資料の3の日陰と視線ですけども、これ以外に検討されているかもしれませんが、音であったり、高い建物が出来るんですよね、そうすると、目の前に高い建物が、住まいの目の前に建物があると、心理的圧迫感があったり、もっと言うと、私は最近越してきたんですが、今の状況で住まいを選んだのに、それが変わる。そうすると、今、私が住んでいる家の資産価値とかにも影響してくると思います。それに対してどうお考えなのかなと思うところです。周辺住民はですね、簡単に引っ越しすることが出来ないです。ずっと住まなければならないんです。一生住んでいかなければならないんですね。一生の話なので、近隣住民の意見を聞いていただきたいというのがちょっと思ったことです。

あともう1個。1個目は終了です。子どもの生徒数のグラフがありましたけども、令和9年に新しく学校が出来るという話でしたけども、その頃には子どもが減っていくような感じですよ。その後をどのように見立てているのかなと思ひまして。少子高齢化が進むと、先々子どもが減っていくんではないか、このグラフから普通に考えられるんですけど、私が見たら。そんな状況なのに、わざわざ税金を投入して、建て替えをする必要があるんですかと、どんな風に思ってるんですかと、わざわざ税金を投入して建て替えなくても、今のまま、小手先でやっていけば大丈夫なんじゃないかと、そういう風にも見えるんですが、どうなのかなというのがお伺いしたかったことです。以上です。

関口施設担当課長 まず一つ目の事業の周知が遅かったのではないかという点においては、お詫びしかありません。しかし、どんな風に最終的にするかということについて、結論に達するまで時間がかかりましたので、具体的な内容について、早い段階で周知出来ませんでした。ある程度見通しがたって、進みましたので、周知が遅れてしまったことについては、大変申し訳なく思っております。

また、これから造っていく建物がどれくらいの高さになるのかという点についても今後の話ですので、4階になるのか、5階になるのかもこれからの話です。そのあたりについては、都度、報告していきたいと考えております。

なお、建て替えの必要性については、この推計を出すに当たっては、実際のこの世の中に存在するのは0歳までですので、その推計になります。これからこの地区で、どれくらいのお子さんが産まれるのか、また、どれくらいの子育て世代の方が転入してくるのかというのは分からない状況ですので、今の実数でカウントすると減少となります。また、令和8年度から9年度に減少しているのは、この地域に限ったことでなく、市の0歳の人口が減っている状況です。これは、コロナ禍の中で、お子さんの出産を控えたということもあるかと思っておりますので、ひょっとしたらこれから増えていく可能性もあるのではないかと思っております。あとは、この東地区は、仙川駅に近いことから転入されてきている方が多い傾向にあります。そのため、若干ではありますが、まだまだこれからこちらの地区が少しずつ増えると思われれます。しかし、大きな建物、大きな集合住宅が建築されるような場所がないため、ここまで大きな変化はないと思われれます。けれどもNTTの研修センターの所に広い土地があって、容積率も良い敷地ですので、あそこの土地が今後どうなるかによっては、周辺の住居環境は、人口も含めて、どう変わっていくかは、今の段階では、見通しが立たないと思われれます。

加えて、建て替えの必要性について、一番課題になっているのは、校舎の老朽化です。若葉小学校の北側の校舎は昭和34年度に竣工した建物、校舎であり、鉄筋コンクリート造で硬い校舎として造ったのが、調布市の中では初めてであり、それから35年、40年にわたって順次に建設してきて、一番古いところでは60年を迎えている状況のため、遅かれ早かれ建て替えをしていかなければならない時期です。当初の見込みでは大きな

計画をしておりますので、当初の計画どおりに造った建物に、既存校舎の解体をして、建て替えをしなければならない。そこも含めて検討していかなければならない。これらの色んな課題があったために、当初の計画ではなくて、四中に一体的に造るといった計画に達しました。一つの要因としては、子どもの増加ですが、やはり既存の校舎の古さというものも課題にはありましたので、その二つを検討して、最終的に全更新という結論に至りました。

司会 それでは次の方に移らせていただきます。残りの3名の方、今一度、挙手していただいてもよろしいでしょうか。そういたしましたら、今の御質問をされた前の方。よろしく願います。

〇〇 〇〇と申します。在住は入間町2丁目です。現在は〇〇〇という団体で、子ども達と活動しております。私自身、今お話しされていた昭和34年に建て替えになった、鉄筋コンクリートですか、あの校舎を使っていた卒業生です。もちろん子ども達も若葉小、四中を卒業しました。質問は、1点ございます。今回の計画が、市の防災計画とも連携はあるのでしょうか。この資料を見ますと、小さいですけども、コンテナも、防災倉庫の位置が全く分かりません。それから、震災はいつ来るかは分からないので、この地域に住んでいる小さい子からお年寄りまで、全住民にとって、やはり、学校というのは地域のランドマークだと思うんですね、その中で、防災計画とどのように連携して、施設を繋いでいくかということは市民にとって、とても大切な、将来に向けての計画だと思います。そのような施策が、世田谷とかでは見られますけども、今この時点で、この地域で、あの小さな防災倉庫だけでは、とても心細いです。先程も話しましたとおり、〇〇〇という子ども達の活動で、学校の校庭をお借りしてキャンプですとか、かまど、食事を作って、体育館で寝泊まりしたりとかしているんですけども、そういった時の施設はやはり、全く備わっていないというか、日頃の子ども達の健全の活動にも使えるんだけれども、いざというときに、人の命を守る施設を造ってもらいたいなという思いです。

それから、先程、現役の小学生の保護者の方からのお話がありました。そのお答えで、現状ではお詫びと理解を求めるにとどまる。お願いしたいという答えではとても気の毒だと思います。やはり、将来の子ども

計画ももちろん大切ですけども、今、現在、学校で勉強している子ども達の存在、とても大切なものです。私たち地域の間人もそれを見守っています。なので、物理的なもので、やろうとする計画の中で、不可能なこともあるかと思いますが、現場の先生の話聞いてもとても気の毒で、苦しい思いをされていますので、ここは市の独断ではなくて、現場の先生と、子ども達がどうしたいかと。柔軟な意見が出てくると思います。四中のグラウンドを今、お借りしていますけども、四中と若葉の生徒と先生、学校同士話し合っ、今の子供も達が、やはり、保護者の方が納得出来るような、のびのびとした教育を受けさせてあげたいし、そうしていただきたいと思います。希望と併せて、防災計画と連携があるのかという質問です。

小林教育部長 ありがとうございます。今回、検討委員会を立ち上げて、検討を進めておりますが、検討委員会の中には、地域の方も御参加いただいて、学校の先生や、地域の方も御参加いただいております。そうした中で、今お話しいただいた、防災の視点。これをしっかり反映出来るようにと既にお声をいただいております。学校というランドマークでもありますが、避難所としての機能や、水害、水の害ですね、への対応など、それぞれの地域ならではの課題もあります。そうした不安を取り除けるような施設にしていきたいと考えております。折角新しく造るわけですから、全ての可能性を否定せず、広く皆様の御意見をいただきながら、もちろん、出来ること、出来ないこととありますが、その中で最大限の努力をして参りたいと思っております。

また、先程、御意見いただきました、今、実際に、学校活動を行っているお子様方への配慮については、若葉小、四中の先生方、そして子ども達の意見を取り入れて進められるように、今後も声をいただきながら進めていくことをお約束します。ハード面でなかなか上手くいかないことは、ソフト面で補うなど、現場の声を聴きながら進めて参りますので、よろしくお願いいたします。以上です。

関口施設担当課長 防災の点で補足です。防災の観点からこういった検討を進めていくかについては、先程の図書館の話と同じように、検討委員会のメンバーの中には防災担当は入っておりません。しかし、まずは学校教

育としてどうしていくのか、けれども、当然、災害時には避難所となりますので、防災の観点から、学校施設の在り方において、重要な視点だと考えております。しかし、現時点で、建物の中をどうするかという具体的な内容はこれからの話なので、ある程度、建物の中の体育館がどこであるかが決まった段階で、防災の部署と具体的に調整をして充実させていきたいと思っております。現時点の、基本構想の中では、メンバーに入っておりませんが、考え方としては、少しでも柔軟に受け入れるべきものと認識しております。具体的には防災倉庫をどこに置くとか、どれくらいの規模が欲しいとか、体育館は避難所になりますので、どの配置が良いのか、他には動線もありますので、もうちょっと具体的な検討が進んできた段階で、防災の部署と協議をしながら、良いものを造っていきいたいと考えています。以上です。

司会 御時間が少々押しておりますが、残り2名の方。まずは隣の方、よろしく願いいたします。

〇〇 若葉町3丁目、〇〇です。お時間もないので完結に申しあげると、こういった工事、新しく校舎を造るとなると、若葉小と四中、非常に近接しておりますので、その工事の間の道路の安全面がちょっと気になりますので、校舎の中のことになるんですが、やはり、先程の方もおっしゃってると思うんですが、隣接に住んでいる方々の安全面や、今後の音の面や視界なども気にしていただいて、進めていただける方がよろしいかと思いません。

この周りの道路、工事のトラックが入るには非常に狭いので。中には自家用車であっても1台すれ違うのがやっとなところもございまして、同時に、併せて道路の拡張の予定があるのかということと、多くの小学校、中学校のお子さん達が四中側に入るとなると、やはり、声も大分聞こえてくると思います。私共の自治会の中でも、大分高齢の方も多くなって参りましたので、日頃から御自宅にいらっしゃる方も、静かに過ごしたいと思われる方もいらっしゃいますので、周りの方のためにも、例えば、緑地などの緑などで音を排除出来るようになるとか、そういったことも同時に検討していただくと非常にありがたいなと思います。時間がないので、私からは以上です。お願いいたします。

関口施設担当課長　まず、工事期間中の安全面について、御質問いただきましたが、まだ、今の段階では工事業者等は決まっておらず、具体的にどういう形で工事を進めていくかも決まっておられませんので、詳細についてはお答え出来ません。基本的に、これまで市で行っている公共工事、建物を造る時、通常では、設計事務所に設計を委託して、出来た設計図を基に施工業者に発注するというように、設計と工事を分離して発注するというのが今までのケースです。しかし、今回については、設計施工一括という言い方をしますが、設計の段階から、施工業者を入れて、工事に必要な視点を入れて、設計書を作るという形で、設計と施工を一括で発注する予定で考えています。そうした段階になった時に、具体的に、工事に入ることも含めて、近隣の皆様にも周知をしながら、工事に入らせていただきたいと思っておりますので、今の段階では、まだ具体的に、どうしたいとか、どうしますということはお答え出来ないのですが、次の実際の設計と施工者が決まった段階では、またこのような機会を持ちながら工事に入らせていただきたいと思っております。

音への配慮についても、建物側で防音対策をしていきますので、今、説明したように、次の設計と施工の業者が決まった段階で、そういった点も協議させていただきたいと思っております。今の時点では、具体的にはお話出来ませんが、ある程度、段階が進んだ時点でお話をさせていただきたいと思っております。以上です。

司会　御協力ありがとうございます。それでは、最後の後ろの方。よろしく願います。

〇〇　本日はありがとうございます。人間町2丁目に在住しております。現在、若葉小に息子が2人通っております。私も、やはり気になるのは、現状の子ども達が、今後、計画が実施されるまでの間、子ども達の学校生活がどうなるのかが一番気になる点となります。先程、お伺いしている中で、最大限に先生や子ども達の意見を取り入れて検討していただけるということなんです。まず、校庭は、先程、四中の校庭を利用させていただく、四中さんとの連携をというお話でしたが、実際、教室も足りていないのかなと感じています。現状、仮設校舎があつて、授業をやっている状況なんです。今後、子ども達の人数が増えてくると、工事までに教室

が足りてくるのかなというのが心配な点です。検討されている部分があって、仮設予定の校舎等、御検討されていることがあれば、教えていただきたいということが1点です。もう1点が、私、学童も利用させていただいております、若葉小学校ですと、現状、あおば学童以外に、わかば学童と東部学童という場所が利用出来る状態なんですけれども、やはり、子ども達が増えているので、1年生、2年生がほとんどで、それ以降の方々は、中々入れないという状況なんです。もし、この学校を建設していくに当たって、こちらの希望なんです。放課後の利用出来る施設などを、出来れば学校内に取り入れていただくことが出来ないかなというのが希望です。やはり、共働きの家庭や、ひとり親の家庭なども、今は多い状況なので、放課後、子ども達安心して過ごせるような場所を、ぜひ、建設に当たって、一緒に御検討いただければなという私からの希望です。ありがとうございます。

関口施設担当課長 今後の若葉小学校の教室の見通しについてですが、数字上の可能性の話ですが、こちらが安全を見た場合には、まだまだ増える可能性があり、もう一度、仮設校舎を造らなければならない状況も想定しております。しかし、人数的には、先程申しあげたとおり、学級編成の人数ぎりぎりのラインで子ども達の数が推移しておりますので、高い方で上振れてしまうと、まだ足りない状況が発生します。しかし、これが少なくなった場合には、ほぼ現状のままで、数字上は大丈夫だという可能性があります。しかし、これは調布市からの転出や、転入の状況によって刻々と変わっていくので、今の時点ではどこに落ち着くかということの見通しが立たないのですが、可能性としては、もう1回、仮設校舎を造らなければならない状況もあると想定しております。

また、学童の在り方についてですが、今、計画している建物の中に学童を入れるということは、検討にありません。なぜなら、今の人数を見ると、相当大きな校舎を造らなければならない中で、いずれ、空き教室が発生しますので、そうなった時に、隣接している学童については取り入れることを想定しています。しかし、まだまだこれから子どもが増えていく中では、学童利用者が増えることが想定されますので、造った建物の中で、暫定的に学童が出来るかどうかということは検討し、造った建物のスペー

スを有効活用して、暫定的な学童の受け入れ先として検討したいと思っております。以上です。

司会 色々と御質問いただき、ありがとうございました。お時間の都合もごございますので、只今を持ちまして質疑応答を終了させていただきます。

なお、次第の下段に記載しておりますが、説明会の中で御質問しきれなかった等ございましたら、次第に記載の QR コードもしくは URL から、アンケートフォームにアクセスしていただき、お問い合わせいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、以上を持ちまして、本日の説明会を閉会させていただきます。本日は、長時間にわたり、貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

お忘れ物に御注意いただき、お気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。